

高知県工業技術センター



高知県工業技術センター 高知県高知市布師田3992-3

中小企業の「ものづくり」支援にも貢献している競輪補助事業

今月の訪問先は高知市内にある高知県工業技術センター。機械金属や化学工業、食品など様々な分野の研究開発をはじめ、企業からの依頼試験や設備利用における技術支援、人材育成のための研修や技術相談など、「ものづくり」全般を支える総合支援機関として地域産業の振興に取り組んでいます。

競輪の補助を受け導入されたという測定分析機器を、いくつか見学させて頂きました。ノイズイミュニティ試験装置はノイズを出して電子機器のノイズ耐性を調べる装置。金属顕微鏡システムは金属材料や製品の破損原因の究明や欠陥解析に欠かせない装置だそうで、使用頻度も非常に高いのだとか。ガスクロマトグラフ質量分析計は香

料、精油、石油化学製品など揮発性ガス成分の分析に使用され、高知特産品のユズやブタンなどの食品に用いられたりも。もっとも最近導入された熱転写装置は、シートに印刷された意匠を加熱により製品表面に転写するもので、この装置のメーカーは地元企業なのだそう。

こういった機器は、例えば企業が海外に製品や材料を輸出する際の成分分析のレポート作成や、製品ユーザーからのクレームを受けての原因解析に利用されるなど、関係企業にとってはなくてはならない機器ばかりですが、高額なものが多いため、自社で購入すると中小企業にはやはり大きな足かせです。そういった企業にとって、この施設の設備を利用できたり、製品試験を

依頼できることは負担の軽減となり、ひいては新製品の開発や業務拡大にも力を注げる環境へと繋がっています。

西内豊所長は「企業などの設備利用は右肩上がり伸びていますが、その時に試験機器がなければなかなか新たなものが生み出せませんからね。競輪の補助には非常に助かっています」と話して下さいました。また、どんなに立派な研究をしても、企業やそれを取り巻く人々の利益に繋がらなければ意味がないと、「売れてなんぼ」をスローガンに広報活動やサービスマン向上にも努めているそうです。

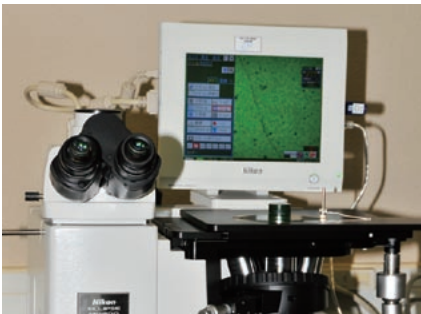
今回見学して頂いた濱口功選手のインタビューは35ページに掲載されています。



施設の概要や設備についてなど西内所長からお話を伺う。



今回見学して頂いた濱口功選手。濱口選手の後ろの棚に並ぶのは、食品開発課が携わったユズやブタンなどの柑橘類を使ったリキュール。



金属顕微鏡システムの顕微鏡本体と写真撮影装置部分。



ガスクロマトグラフ質量分析計。



熱転写装置。実際に製品に利用されている様々な模様のシートも見せて頂く。